

第1回鶴岡市中小企業振興会議（会議録）

- 日 時 : 令和6年8月26日（月）13時30分～15時00分
- 場 所 : 鶴岡市役所 別棟2号館 21・22・23号会議室
- 出席委員 : 青木 孝弘 委員、玉津 弘之 委員、鈴木 俊将 委員、大橋 由明 委員、
高橋 健彦 委員、池田 ゆり子 委員、村上 良一 委員、屋代 高志 委員
本間 元毅 委員、奥田 広樹 委員、阿部 真一 委員
- オブザーバー :
山形県庄内総合支庁地域産業経済課長 小松 弘幸 氏
- 事務局 : 商工観光部長、商工観光部次長兼商工課長、商工観光部商工企画主幹、
商工観光部産業強化イノベーション推進室長、商工観光部商工課課長補
佐兼中小企業振興主査、商工観光部商工専門員（企業振興班）、商工観
光部商工専門員（雇用推進班）
- 公開非公開 : 公開
- 傍聴者 : 4名
- 次 第
1. 開 会
 2. 事務局あいさつ
 3. 協 議
 - (1) 鶴岡市中小企業振興会議及び振興計画（案）について
 - (2) 主な課題と重点事業（案）について
 - (3) 今後のスケジュールについて
 - (4) その他
 4. 閉 会

<会議概要>

1. 開 会

2. 事務局あいさつ

《商工観光部長》

・この度は、御多忙のところ、振興会議の委員をお引き受けいただくとともに、会議にご出席賜りお礼申し上げます。

・本市では昨年度末に、第2次鶴岡市総合計画の後期基本計画を策定している。本会議を設けた背景は、後期基本計画の中でも重要な分野である中小企業の更なる振興に向けて、必要となる課題を改めて把握しながら、必要な施策を再構築したいというものである。

・中小企業を巡る課題は様々で、その課題に対応した施策の見直しや新たな施策の打ち出しも必要であるが、鶴岡の産業の強みをさらに伸ばす観点も重要と考えている。

・3つ例を挙げると、ひとつは、令和4年度の統計であるが、製造品の県内における出荷額において、鶴岡市が初めて1位という結果になった。約5,800億円の製造品出荷額という結果であり、ものづくりのまちという柱がある。

・また、オンリーワンの技術を持っている事業者、また、サイエンスパーク発の素晴らしい技術を持った事業者など、それらをさらに発展させるという観点もある。

・そして、ユネスコ食文化創造都市の認定を受け、今年で節目の10年を迎えるが、食産業でも、酒造業をはじめ高品質で魅力的な商品を生み出している企業もあり、そうした強みをさらに伸ばしていく方策という観点も必要と感じている。

・この中小企業振興会議については、本市の中小企業の振興に関する効果的な施策を推進することを目的に、中小企業をはじめとする関係者の意見を広くお聴きする機会として、開催させていただいた。

・今回初めての会合であり、委員、オブザーバーの皆様からは、ぜひ広い観点で、忌憚のないご意見を賜りたい。

(会長選出)

・会長に青木委員を選出。

3. 協 議

議長：会長

(1) 鶴岡市中小企業振興会議及び振興計画（案）について

(2) 主な課題と重点事業（案）について

(3) 今後のスケジュールについて

… (1) から (3) まで一括協議 …

《青木会長》

・鶴岡市は大胆な産業施策が功を制し、これからその強みをさらに増していく段階にあり、産学官金、ワンチームで取組めるような産業施策を共に考えていきたい。

… 事務局より説明 …

以下、各委員による主な発言（順不同）

《委員①》

- ・人材不足解消に向けIT化による効率化を図りたいが、ITに対応できる人材が不足しているため、デジタル人材のマッチングが重要と考えている。
- ・材料費高騰に伴いコストが増加している。介護保険事業者は上限設定があり、材料、人件費、郵送料等もレンタルコストに入っており、非常に厳しい。
- ・女性社員が多く、出産、育児等で休んでいる女性社員も多い。社としても、出産・育児を奨励している。
- ・人としての人格形成において出産や育児は非常に重要で、家庭の大切さ、人格形成、そこから地域コミュニティを大事にするということにも繋がる。時間休や定時退社も奨励している。
- ・当社では、社員一人ひとりのキャリアプラン作りを奨励し、支援もしている。
- ・同友会と山形大学は連携協定を結んでおり、インターンシップを通して地域課題を見せ、学生のキャリアプラン作りに反映いただいている。また、大学、同友会、学生、そして企業が互いに学び合うことも考えている。
- ・高齢者に関して、これまでは会社に合った能力を持つ人を探してきたが、その人に合った仕事を割り振ることが必要と考えている。
パッチワークのように組み合わせたり、チームでやったりすることなども考えている。

《委員②》

【女性の働く環境について】

- ・働く人の年代によって求めているものが違うと感じる。
- ・賃金を求める方もいるが、どちらかというワークライフバランスをしっかりと保ちたいという方がすごく多い。
例えば20代前半は、給料を使い自分の好きなことをやりたい、そういった形のフレキシブルな働き方をすごく求めている。
- ・業種によって対応できる、できないはあるが、例えば農業だと季節性もあるので、そういったフレキシブルへの対応は可能である。
- ・高齢で体力的に午前中しか働けないという方や、給料云々ではなく、少しでも会社の役に立ちたいとか、仕事を通じて地域の役に立ちたいという方がすごく多い。
- ・当社ではパズル型と呼んでいるが、複数人をうまく当てはめ、延べ人数で1人とか2人になればいいという考え方で実践している。
- ・女性の潜在的な労働力を掘り起こすノウハウの蓄積が大事と感じる。

【その他】

- ・青年会議所会員には、自分の時間が欲しいから起業するという方が非常に多い。
- ・賃金云々というより、フレキシブルな働き方という部分にすごく魅力を感じる若者は多い。
- ・チャイルドペナルティ（※）という観点からも、フレキシブルな働き方は、大事になってくると感じる。
※チャイルドペナルティ … 子供を持つ人が職場や労働市場で直面する様々な困難や壁を指す総称で、特に子供を持つ男女の雇用格差が生まれ、女性の賃金が低くなっている状況のこと。
- ・域外で活動するための人材確保という点では、小さな会社ほど営業マンの確保は難しいが、鶴岡のものを気に入ってくれ、鶴岡の企業、鶴岡のプロダクトを応援してくれる、営業してくれるようなところをしっかりと掘みに行く、そういった外向きの施策も重要な視点と考える。

《委員③》

- ・ワークシェアリングについて、IT関係については、自社で雇わず、数社の面倒を見ている方をお願いしているが、そういう方は特に女性が多い。お金ではなく、時間をいかにうまく使えるようにしてあげるかが大事と感じる。
- ・実家の農業を継承する若者向けとして、農業以外の就労と農業を教わる時間の両方を確保することも重要である。

《委員④》

- ・事業者の状況として、コロナが明けて1年、円安や災害等で足踏みも見られるが、人手不足や賃金の問題も含め、経済環境の変化に対応していかなければならない。
- ・支援機関として、コロナ対応によるサポートを得るための新規会員と、会員の高齢化による退会が拮抗している状況である。
- ・中小企業振興にあたって、これからは観光という視点が切っても切れない、一体不可分であると考え。まちの再生、まちづくりといった分野など、他分野とのリンクした整理をお願いしたい。

《委員⑤》

- ・コロナ禍のゼロゼロ融資の返済が始まっており、そういった相談も増えている。
- ・外国人材受け入れの監理団体として活動しているが、職員数が限られている中で、需要はあるが対応できていない部分も少なくない。
- ・創業による新規加盟が増えている一方、廃業も同様に増えており、スムーズな廃業支援も重要であると考えている。

《委員⑥》

- ・人手不足を解消するための人材育成も重要であり、支援機関を活用した人材育成など、取り組んでいただく余地はまだあると感じている。
- ・資料として、課題解決型だけではなく、地域の優れた企業の先進的な取り組みを活かすような整理の仕方があってもいい。
- ・例えば、鶴岡には出羽庄内国際村というサポート機関があり、そこがうまく機能すれば、海外からの労働者の生活環境がケアでき、注目されている強みをさらに伸ばしていける可能性もある。
- ・そのような、他の地域にはないようなものや、他の地域より優れているものに着目することも大切である。

《委員⑦》

- ・中小企業が元気にならなければ、人口流出は止まらない。
- ・現在900円の最低賃金が10月から955円に上がる。企業訪問などにより、声が届かないような小規模事業者の生の声も反映したい。

《委員⑧》

- ・県内でも林業・バイオマス発電など、地域循環型産業に民間主導で取り組んでいる市町村もあり、参考になるプロジェクトだと思う。
- ・従業員の高齢化やいずれ会社を売らなければならないというような、生々しい声も聞かれる。
- ・働く場所が必要であり、事業承継、M&Aについてしっかり繋いでいくことが大切である。

《委員⑨》

- ・庄内地区は新規採用の高卒の就職割合が県内で一番低い地域である。県内全体では約8割が地元就職するが、庄内地区では7割と低い。
- ・庄内地区は、女性の県外流出率が高い。ただし、地元に着定しているのは女性の方が多いという、反比例な状態になっている。

《委員⑩》

- ・先日、チャイルドペナルティについての番組を見た。この問題を解決するには、保育施設の充実や補助政策だけでは不足だと感じる。市民生活に密着する福祉の分野まで言及して本計画を作るべきか、そういったところの議論も必要である。
 - ・人口減少の中、各事業所を承継していくためには人手が必要であり、賃金や学童の整備、若い方や女性の方、それから70、80歳と高齢になっても働ける環境をどう準備していくのかという視点も求められていると思う。
- この計画の所掌する範囲について、そういった視点も必要なのではと思う。

《オブザーバー》

- ・若者の地元定着と回帰促進は表裏一体であり、やはり若者が地元のことをよく知っているかどうか非常に大きいと思う。
- ・庄内総合支庁と企業が一緒に、中高生を対象にした「ワクワクワーク」という職業体験会を開催しているが成果が出始めており、企業が中高校生にアプローチすることは非常に大事であると感じる。
- ・大学生の地元回帰促進は、難しいが重要であり、庄内一丸となって取り組みたい。

《事務局》

- ・本日は、特に働き方という点について、皆様から踏み込んだ意見をいただいた。また、資料の整理の仕方についても、課題解決型という捉え方だけではなく、優れた取組を活かす視点も大切というご意見をいただいた。
- ・今回いただいたご意見を踏まえて議論のポイントを整理し、次回会議のご案内をしたい。また、可能であれば令和7年度事業についてのご意見もいただきたい。次回以降も、引き続き皆様からご協議いただきたい。

(4) その他
協議なし

4. 閉会

以上